



小粋なフィンランドボート、
テルヒ・ノルディック 6020

TERHI Nordic 6020

問い合わせ

ノルディック 6020
BF20

ヨットイングワールド (株)
本田技研工業 (株)

TEL055-978-1477
TEL048-468-9021

<http://www.members.tripod.co.jp/yachting world>
<http://www.honda.co.jp/marine/>





写真上・ HondaのBF20をマウントし、快適な走行を楽しむ。写真ではトランサム高が艇体全長に比べて十分に確保されているのがわかる。小型オープンボートとしては非常に直進性能が高いし、安定性も充分。



デッキアレンジはアンカーウェルを含めストレージ関係も充分。この手のボートは超シンプルに乗り込むか、徹底的に後付け積装に凝るかどちらかだが、個人的にはシンプルなお洒落だと思う。

写真下は手前がモデルチェンジを果たしたBF20。その向こうに最大馬力のBF225。BF20は低振動と軽量化（Sタイプで46kg）を計ったモデルで、CARBの2008規制をクリアしている。またBF8/9.9との徹底した編集設計で部品共用を計り、低コスト化にも成功している。リサイクル可能率も95%と高い。



小粋なボートが進水した。といってもすでにテルヒボートファンは日本に多く、このノルディック6020というボートも多くのユーザーがいる。テルヒボートというビルダーは、フィンランドに本拠を持ち、日本には静岡県のがヨッティングワールド(株)が輸入している。ラインアップは計12艇。ここで紹介するノルディック6020は上か



艇体のボリューム感は充分。艇体重量は200kgに押さえられているので、トレーラブルな1艇といえる。モーターウェルも十分なスペースを確保しているため、メンテナンス性も高いだろう。スターンのベンチシートは、容量が大きいのでバッテリー、燃料用携行缶、さらに釣り道具などを一気に収納可。



ら2番目に大きいサイズである。全長×全幅×重量は462×187(以上cm)×200kg。定員は5名。搭載推奨馬力帯は、20〜30馬力。試乗艇はホンダの4ストローク船外機BF20(20馬力)をマウント。メーカー側の言うところの最小馬力ではあるが、十分な走行性を楽しむことができる。実はこのノルディック6020はバーハンドル仕様だが、パリエーションで6020Cというのがある。こちらはコンソール仕様となる。どちらを選ぶかはユーザーの好み次第なのだが、仮にバーハンドル仕様で当初楽しんでいても、

後々オプションでコンソールを装着することもできる。工場オプションではなく、日本で後付けできるところに注目。コンソールの単体価格は、取り付け費込みで、18万5千円。ちなみに艇体価格は予備検査を含んで48万5千円と手軽な設定になっている。車検対応のトレーラーも29万円を用意されていて、楽しみ方は広がる。家族や友だちと手軽に海に出るのに、ポートは何でも良いという時代では無い。北欧のテイストのある小粋なポートで、独自のポータリングスタイルを作り上げることが、今の流行りである。

